

新しい年には連休前からオープン予定です。

(ゴールデンウィーク)

去年は700名の方が訪れて下さいました

地元民話 ライブで堪能



民話ライブや抹茶サービスなど多彩な催しで観客を楽しませた森の民話茶屋—彦ハウス・大玉村

大玉

「森の茶屋」が民家に移動 趣向凝らした演出

大玉村の多くは山民の暮らしを再現した。訪れた森入り口で今年7月から10月まで開催してきた「森の民話茶屋」は18日、会場ながら地元民話を楽しんだ。

締めくくりの事業～
森の民話茶屋
in 彦ハウス
(11月18日)



特別ゲストの会津山田登志美さん



安達太良山からの水で抹茶たてる

森の民話茶屋は、地元文化団体「森の民話茶屋」が、観光協会など団体で運営委員会を構成して事業を展開してきた。本年度の興地城のサポート事業に指定されている。

福島民友2000年11月21日

この日、村内外から観客約百二十人が訪れ、座敷を埋め尽くした。村内の劇団「アタラシ」のメンバーが民話や語り、影絵を演出したほか、来年のつづきとして、安達太良山から湧き出た水でたてた抹茶を振る舞うなどの主催者の趣向を凝らした演出で観客を喜ばせた。



しばらくの間のお休みです ～スタッフからのメッセージと思い出～



「どこの山かわかりません。その山のがけのところに、おうちが1けんたっていました。」

『ないたあかおに』のお話のはじまりの部分です。

そんなお話の世界の中にスーッと入っていくのが森の民話茶屋です。

心の やさしい おにの うすです。 どなたさまも おいで ください。 おいしい おかしも ごさいます。 お茶も わがしてごさいます。 あかおに

豊かな自然の恵みと人と人との出会いの中で、ふるさとに伝わる民話を聞き、心をなごませる空間をもつことができたならとスタートした森の民話茶屋。

おいしいお茶と心あたまるお話を用意してお客さまをお待ちしました。たくさんの人が訪ねてくださり、色とりどりの思い出を心に描くことができました。

青々とした山の木々がいつのまにか色づき、民話茶屋もそろそろ冬じたくの季節となりました。

むらのみなさまへ

今日は 一日 るすに なります。 あしたは います。 あかおに あかおに

にんげんたすと なかよく まじめに つきあって……

きみと ほくと いったり きたり して いては……

どこまでも きみの ときだす あかおに

人間とのふれあいを求めた赤鬼の思いを实らせようとして、山をはなれた青鬼…。青鬼の深い友情と優しさを知り、はらはらと涙を流す赤鬼…。

心のどこかで人と人とのつながりを求め、自然とのかかわりを求めている。人と人との森の民話茶屋でまた出会うことを心待ちにして……。

「しばらくの間、 るすになります。 春にはまた開店します……。」

シアター・あだたら 国分幸恵



10月8日まで毎週日曜日の開店でしたが、急きよ9月30日(土)に、東京からバス1台、総勢60名のお客様をお迎えしました。東京千代田区稲町「循環型社会推進機構研修」の方々です。

ふとした縁で、わが店主であるみづほさんの想い「ふるさとの民話とふるさとの森をつないで」が代表者に伝わったのか、人と自然が共生できる場所でのおもてなしとなりました。

アットホームなおたまでつくられた日本一おいしい大玉の米の「おにぎり」は、わざわざ、笹の葉を用意してくれる心くばりもあり、70人分の豚汁や手製の漬物もあったという間に売り切れてしまい、たいへん評判でした。

いっぺんに、60名のお客様を迎えることはじめてなので私達スタッフははてんでこ舞い。みづほさんが「今日は特別に開店しました。いつも茶道クラブの方のお手伝いもあり」と挨拶をあげたところ、店内から拍手が沸き起こったのです。

慌ただしく対応する中で心をこめて差し出すお茶に、もてなしの心が通じたものと嬉しく思いました。

兄弟二人の民話「八千八声」を領きながら聞き入る人達は、幼い頃の原風景を思い出していたのか、のどけいそう。

人の温もりを感じ、何やら皆さんはほっとした顔でお帰りになりました。

来年も出会いを楽しみに、ただいま『準備中』

シアター・あだたら 国分幸子